

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年12月3日（金）
- 2 確認箇所
増設雑固体廃棄物焼却設備
- 3 確認項目
増設雑固体廃棄物焼却設備の状況

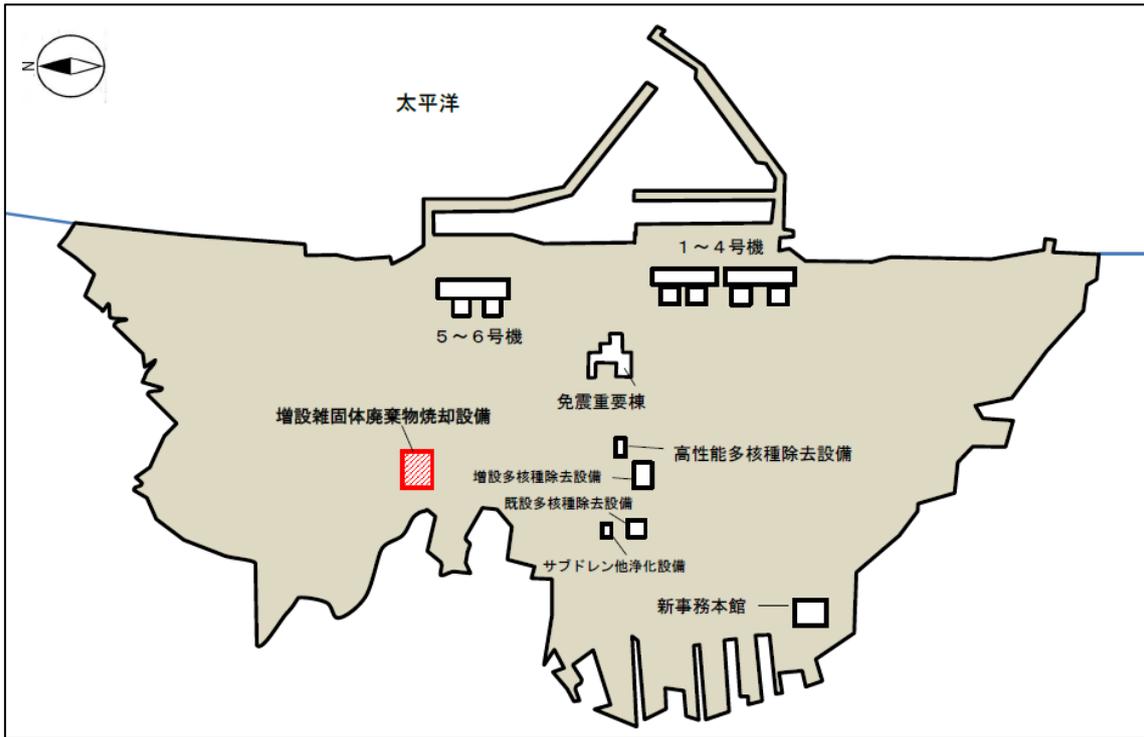
4 確認結果の概要

増設雑固体廃棄物焼却設備は、主に伐採木、ガレキ類中の可燃物を焼却処理することを目的として建設工事が進められているが、令和2年11月に焼却炉内の耐火材を乾燥させるための乾燥焚運転を実施した際、ロータリーキルンシール部の摺動材に想定を上回る摩耗が発生したため、調査したところ、運転時に発生する軸振れ等が原因であることが判明した。

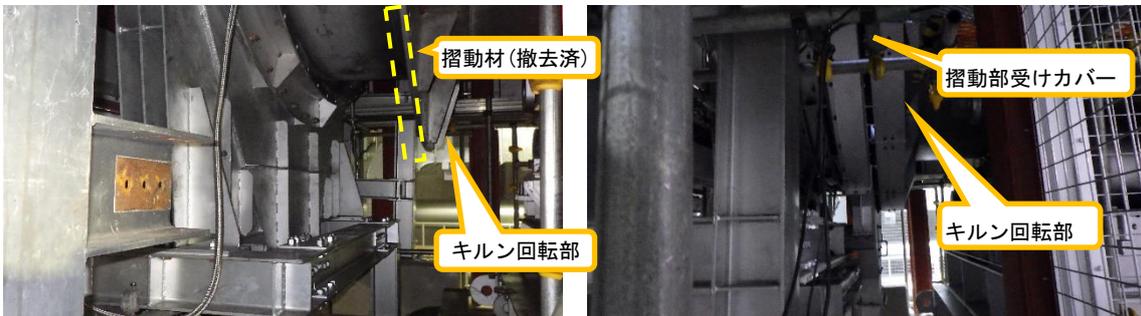
対策として、ロータリーキルンの摺動部の設計変更を行うとともに、摺動部に影響が及ばないシール方式への変更が計画されていたことから、状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和3年8月31日）

なお、本設備の形式は、ロータリーキルンとストーカ炉を組み合わせたキルンストーカ式である。

- ・ロータリーキルンについてはシール部の変更は完了しており、現場確認時はキルンが回転し試運転が行われていた。（写真1）。
- ・ストーカ炉においても燃焼試験が行われており、確認窓から炎が確認できた。（写真2）
- ・廃棄物貯留ピットには木材チップが貯められていた。（写真3）
- ・東京電力では今後、放射性物質を含まない物を燃やすコールド試験を実施していき、その後に使用前検査及び実際に放射性物質を含む物を燃やすホット試験を行い令和4年3月の運転開始を目指すとしている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

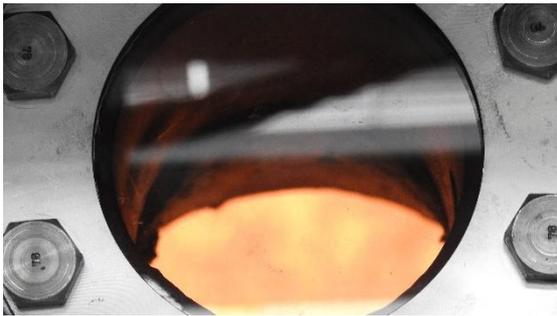


(写真1-1)
ロータリーキルンシール部
(入口側)
(令和3年8月31日撮影)

(写真1-2)
同左
摺動部受けカバーの中に新たな摩耗
対策を実施した摺動材が取り付けら
れている (令和3年12月3日撮影)



(写真2-1)
ストーカ炉の状況



(写真2-2)
確認窓の拡大図



(写真2)
貯留ピットの様子
木材チップが貯められていた

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。